

日本語であそぼう ふなばし 2008

夏休み子ども日本語教室

報告書

日本語であそぼうふなばし 2008 企画		P.2
実践報告 1.統計		P.3
実践報告 2.プログラムの内容と実際		P.4
総括		P.11

作成 地球っ子プロジェクト
2008 年 8 月 31 日

1. 主催、共催、後援等

主催：地球っ子プロジェクト（社会教育関係団体）

共催：東部公民館

後援：船橋市国際交流協会

船橋市教育委員会（指導課）と協力連携のもと実施

文化庁平成20年度地域日本語教育支援事業〔日本語教室設置運営〕の委託事業として実施

2. 趣旨

外国人児童生徒（日本語を母語としない）が、日本の生活に慣れ、学校での学習活動や地域の行事に参加できるよう支援を行う。

併せて、日本人児童生徒の参加による国際理解教育も行う。

3. 実施日時 平成20年7月20日（日）～22日（火） 3日間 概ね午前

4. 実施場所 東部公民館および千葉市科学館（きぼーる）

5. 日程

7月	時間	場所	カリキュラム
21日(日)	09:00~12:00	東部公民館 講堂	1)自己紹介 2)宇宙、星をテーマに2日目の準備
22日(月、祝)	09:00~14:30	千葉市科学館	見学、観察、記録
23日(火)	09:00~12:00	東部公民館 講堂	1)2日目のまとめ(日記、絵、発表) 2)お楽しみ会

6. 参加予定者数及び参加の方式 児童生徒 25名 ボランティア 20名

児童生徒：地球っ子プロジェクトの「子ども日本語教室」に参加している児童生徒

：市内小中学校を通じて募集する児童生徒（外国人を主とし日本人も）

ボランティア：地球っ子プロジェクトおよび日本語教室等から応募したボランティア
以上

実践報告 1. 統計

1.参加児童・生徒とボランティアの内訳

参加児童・生徒 **37** 名（申し込み人数 **38** 名、3日間欠席 **3** 名、当日参加 **2** 名（保護者の同意で保険未加入）

- ・土曜日の子ども日本語教室の会員 **24** 名
- ・教室外からの参加 **13** 名

2008 年 7 月	20 日（日）	21 日（月祝）	22 日（火）
児童生徒	33	35	26
ボランティア計	15	12	16
地球っ子	11	9	11
外部	4	3	5
保護者	0	1	0

2.児童・生徒内訳

学年別

就学前	1
小 1	3
小 2	3
小 3	4
小 4	4
小 5	5
小 6	3
中 1	3
中 2	5
中 3	4
その他*	2
合計	37

国籍別

フィリピン	14
中国	13
ブラジル	2
アメリカ	2
韓国	1
ウクライナ	1
ロシア	1
ニュージーランド	1
ネパール	1
日本（帰国）	1
合計	37

* その他：外国から夏休みで来日中の親戚

3.参加者の居住地域の傾向

新京成線沿線 **13**、津田沼からバス路線 **2**、JR 線 **15**、保護者の送迎 **7**

実践報告 2. プログラムの内容と実際

(1) 行事のねらい

共通テーマの「星・宇宙」に沿って、日本語のレベル、年齢に応じた活動を工夫する。活動を通じて、読む、聞く、話す、書く機会を設ける。活動の中で互いを認め、助け合い、コミュニケーションをとる工夫をする姿勢を引き出す。

(2) グループ編成

参加者の日本語レベルや年齢層が多様であったため、作業のしやすい同性または同年代の仲間との交流がはかれるようにした。

グループ 1	就学前～小学校 1・2 年
グループ 2	小学校 3 年以上の女子 外国から参加で日本語がわからない女子中学生 1 名
グループ 3	小学校 3 年以上の男子
グループ 4	日本語レベル初級後半 小 5、小 6、中学校 1、2 年
グループ 5	日本語レベル初級前半 中学校 1 年～3 年

(3) 全体のテーマ 「宇宙・星」

テキストとして、プログラムを配布した。誕生日と星座一覧、ロケットの作り方、科学館の展示物の紹介と写真。

(4) プログラムごとのグループ別活動の実際

1 日目

誕生星座で 自己紹介	壁に 12 枚の大きな星座の絵を貼っておいた。自分の星座を構成する星に名前を書いて貼る。自己紹介で誕生日と名前、星座が言えるようにする。
グループ 1 出席 6 名	成果： 誕生日が言えた子 3 名、言えなかった子 3 名。誕生星座のことは全員知らなかったなので、自分を守ってくれることを説明し、星座を個々に教えてあげた。星型のシールをハサミで上手に切り取ることができた。道具を他の人が使っているときに待つこともできた。星に誕生日と名前を全員書くことができた。 問題点： 自分の誕生日と星座の関係を結びつけるのが難しかった。星のシールが小さくて、名前と誕生日を書きにくそうだった。壁に貼った星座に誕生日の期間が書いてあれば、自分で探せたように思う。
グループ 2 出席 10 名	成果： 日本語ゼロ 2 名、日常会話程度 3 名、学習に支障がないレベル 5 名の構成。ゼロレベルの 2 名は他の子を見たり、ボランティアのゆっくりし

	た日本語や英語などの説明とジェスチャーで名前をシールに書き、自分の星座に貼ることができた。他の8名は問題なくできた。女子ということもあったのか、全員自分の星座を知っていた。出身国6ヶ国の構成だったが、世界共通のテーマでグループに溶け込みやすかったのではないかと思われる。 問題点：もう少し星座に関して踏み込んだ読み物や話もあっても良かったと思うが、日本語レベルゼロの子が2名いたので、多くの時間を作業にあてた。日本語レベルの高い子へのフォローがあればよかったと思う。
グループ3 出席5名	誕生日と自分の名前を全員書いて、言うことができた。皆、誕生星座があること、自分の誕生星座を知らなかった。各自の星座にまつわる話を簡単にして、各自の星座を教えたので全員自分の星座にシールを貼ることができた。とても関心を示した子がいた。
グループ4 出席6名	6人のメンバーのうち5人は一年ぐらい前に中国から日本に来た小学校高学年と中学生だった。毎週一緒に勉強しているメンバーなので、レベルもわかり、まとめやすかった。星座についても各々知識があったので、問題なく作業ができた。
グループ5 出席6名	受付が三々五々だったので、来た順に自分の名前をシールに書き、星座に貼った。誕生日は知っていても、誕生星座を知らない子がいたので、一覧表で確認して、覚えさせた。全員での活動にならなかったなので、自己紹介できなかった。

宇宙・星に関する活動	ロケット作り、紙飛行機作り、星座の神話などグループのレベルに応じた活動を通じて、会話を楽しみながら言葉を覚える。
グループ1	1.ロケットの絵を描く 土曜日の日本語教室で見た宇宙図鑑の内容を覚えていた子は、木星、土星など特徴のある星の絵を描いた。初め何を描くかわからなくて、花や家を描いていた子も、他の子が楽しそうにロケットや星を描いているのを見て、自分も描くことができた。どの子もカラフルで力強い絵が描け、夜空をイメージして、濃紺の画用紙を選んだので絵が映えた。 2.絵本『ロケットこざる』の読み聞かせ 全員真剣に聞き入っていた。時間が足りなかったため、3日目に続きを読んだが、どこまで読んだかを良く覚えていた。席を移動して、小さく集まって行えばもっと良く聞こえたと思う。
グループ2	ロケット本体の絵づけと組み立て：8才から13才までの参加者に年令に応じた形で、ロケットの本体に絵や色をつけてもらい、そのあとで、パー

	ツを切り取り、のり等で接着した。 全員個性的な独自の絵を描いていた。あきることなく最後まで非常に丁寧に作業し熱心に取り組むことが出来た。その間も、何を描いているの？と尋ねる子、それに答え説明する子、道具の貸し借りをする子、間違った部分を切っている子に注意をする子、言葉の分からない二人にも日本語で説明している子、日本語がわからなくても理解した二人。いろいろな場面で年齢の近い女の子同士の自然な発話があり、とても良い雰囲気の中楽しい時間を過ごすことができた。 問題点：グループの参加人数が直前まで決まらなかったのも、型紙が用意できず、ボランティアが分担して当日あわてて作った。
グループ 3	1.太陽と月と地球の関係：1 ヶ月という言葉も概念もない子が多かったので、カレンダー、ホワイトボードを使って、一ヶ月 30 日、一年 12 ヶ月を説明。一日、一ヶ月、一年を覚える。 地球儀を使って地球の自転を説明。ゴルフボール（月）と懐中電灯（太陽）と地球儀を使ってシミュレーション。地球の周りを月が一ヶ月で一周、太陽の周りを地球が一年で一周、太陽の役の子が懐中電灯を持ち、その周りを地球儀を持った先生と一緒に地球役の子が回り、ゴルフボールを持った先生と一緒に月役の子が地球の周りを回りながら太陽の周りを回った。太陽を一周するのに、月の子達は地球を 12 回周った。 言葉の説明では理解不可能なレベルなので、身体を使ったシミュレーションで少し理解できたと思う。 2.ロケット作り あらかじめ、紙にロケットの型紙を書いておき、子供達には切って貼って組み立てさせることにする。 片言よりは話せ、簡単な説明は通じる子 2 名、ほんの僅かな日本語しか分からない子 1 名、だいたい日本語が通じる子 2 名の構成で、全て日本語での指導で作業に不自由はなかった。 ロケット作りに入る前に、描いてある図形の名前を一通り言う事にする。正方形、長方形、円、扇形、ひし形、円錐。小 5 H 君以外は正方形、長方形、円の言葉を知らなかった。小 6 の 2 名には中学につなげる為、扇形、ひし形、円錐の言葉を教えることにする。定着したかどうかは疑問だが、必ず学校の学習では使われる言葉の為、耳に入れることに意義があると思った。 ロケット作りは予想以上に難しく、まず図形通りに切ることが難しかった。ボランティアが代わりに切ることもしばしばあった。また貼り合わせるの

	は非常に苦戦した。一日目に出来上がったのは、2名のみ。二人は持ち帰らせた。1名は難しすぎて癩癩を起こし泣き出した。 問題点 自分で作ったことがなかった為問題点が予測できなかった。糊などの接着剤の善し悪しも試しておく必要があった。簡単に出来ると安易に考えていたため時間配分が上手くいかなかった。もっと早くロケット作りに取り組めばよかった。なぜロケットなのか、なぜ星座なのか日本語が片言の子どもたちに上手く理解させることができなかった。翌日の見学学習に上手く関連付けできなかったような気がする。
グループ4	マイロケット作り：事前に自分独自のロケットを作ろうと指導しておいた。図面を描いたり、計算に時間がかかった。自分で計算機をもってきた子もいた。小5には難しかったようだが、何も手伝うことなく独力で完成させたことはすばらしかった。ボランティアもいっしょに作りながら、会話をすることに専念した。 問題点：時間配分が上手にできなかった。糊の貼り付けがうまくいかなかった。
グループ5	1.天球模型作り（多面体の組み立て）：全員で協力してやり、会話もはずんだ。 2.星座にまつわる神話を読み聞かせ。音読も行った。 3.紙飛行機作り：用意した4種類とオリジナルを作った。初対面の子とも会話をしながら作業を協力し合って作品を完成させることができた。たくさん作って、他の参加者にも配ることができた。

2日目

千葉市科学館で、プラネタリウム（年齢別に2つのプログラムに分けて）を鑑賞し、体験コーナーをスタンプラリー形式で回った。

（1）小学生：「やじるしくん」昼から夜に移り変わる映像の後、7月の夜空を見ながら、館内の係が子どもたちに問いかけると、映像キャラクターのやじるしくんが星座や星を指しながら説明するというもの。

（2）中学生と日本語のレベルの高い小学生：「銀河鉄道の夜」 電車の映像とともに、夜空を進みながら物語の断片のナレーションがあり、広大な星空の映像を楽しむ。

グループ1 出席4名 保護者1名	プラネタリウム：ふざけないで静かに見られた。ガイド役のお姉さんの呼びかけにも応じたりでき、とても楽しかったようだ。内容も、昼間の様子から次第に暗くなり、星が一つ二つと出てきたり、矢印君が出たり消えたりして、小さい子どもたちの目を引く演出がとても良かった。
------------------------	---

	体験コーナー：4名を保護者と中学生の兄の手を借りて1対1の組を作った。保護者と兄の組は時間をかけて楽しんだようだ。あとの2組は、説明を読んだり聞いたりすることができず、触って動くものだけを少しずつ試して飛び回っていた。小1には難しかったと思う。ロボットの実演は楽しそうに見ていた。
グループ2 出席 10名	プラネタリウム：子ども達が飽きて寝てしまわないかという危惧を一蹴してくれた。言葉の問題のある参加者もいて、それぞれのレベルで理解に差はあったはずだが、興味深く楽しく星について学べた様子だった。プログラムからの問いかけにも元気な声で答えていたのが印象的であった。 日本語教室の子ども用ではないが、日本語がよく理解できる参加者は非常に楽しめたと思うし、日本語が出来ない子に関しても、美しい星の映像等、夏休みの思い出になるような有意義な体験が出来たと思う。 体験コーナー：一つ一つ器具や機械の使い方や実験の意図等を説明して、みんなで一緒に回ろうと考えていたが、開始直後あきらめた。子ども達は、次々体験したくて、興味のあるものの方へ行ってしまう、クモの子を散らすような状態になってしまった。自発的に2～3人のグループを作り、時としてメンバーを入れ替えながら回っていた。日本語ゼロレベルの参加者もいつも誰かと一緒に回っていた。参加5年目の中学生と高校生ボランティアもよく面倒を見てくれた。 特にリサイクルに関する体験コーナーが人気があったようだ。ほとんど全てのコーナーを体験したという参加者が多く、科学の面白さに触れられたようだ。
グループ3 出席 7名	ボランティアごとに子ども（2名、2名、4名）を分けて、最後までボランティアごとの別行動にした。体験コーナーでは、彼らなりに楽しんでいった。お天気ショップでは、4人で楽しんで一生懸命取り組んでいた。電子回路パズルは、4人は集中できずすぐ飽きてしまい出来上がらなかった。Hは出来たと聞いて、彼の興味のある物への集中力を改めて感心した。太陽と地球と月の関係のところがあり、見せようとしたが、みな日本語の説明が難しすぎてわからないと5秒でその前からいなくなってしまった。日本語の説明の必要のないもの、ボランティアが少し説明すれば理解できるもの、実際に体験してゲーム感覚で楽しめるものに子ども達は興味を示していた。スタンプラリーに書いてある体験が何なのか把握していなかった為、殆どシールを貼れなかった。子供達が分散する為、誰が何の体験をしたのか把握し切れなかった。

グループ 4 出席 6 名	プラネタリウム：前もって、宮沢賢治の作品について説明しておいた。映像の美しさ、広大さに感激した様子で、このようなプラネタリウムは初めて見たと興奮していた。 体験コーナー：2人ずつになり、興味あるものは何回も繰り返し、意欲的に見て回っていた。 内容、企画ともこのグループのレベルには適していたと思う。
グループ 5 出席 7 名	プラネタリウム：宮沢賢治の原作『銀河鉄道の夜』を知らない子には内容は理解できなかったと思われるが、静かに鑑賞していた。もう少し星に関する話しが聞きたかった。 体験コーナー：多種多様な体験ができ、楽しかったようだ。グループに関係なく、いろいろな子と一緒に回って、小学生の面倒も見ていた。各自興味のあるところで楽しく遊べて良かったと思う。1日目に配ったパンフレットはおいてきてしまったので、当日配ればよかったか。

3 日目

2 日目の科学館での体験を、写真や絵を使って日記にまとめる。お楽しみ会の全体活動として、アンクルンの演奏を体験する。

グループ 1 出席 4 名	1.科学館の日記：レベルに応じた日本語としては、もう少し書けると思うが、20文字くらいで終えた。 2.グループ 5 が 1 日目に作った紙飛行機をもらって飛ばした。 3.来日間もない子は、日本語のできる中学生にロシア語の通訳とあいうえおの指導をしたり、紙切りをして遊んでもらった。 4.読み聞かせの続き：前々日の終わりを覚えていて驚いた。満足していたようだ。
グループ 2 出席 6 名	1.ロケットの完成 全員が仕上げる事が出来た。内容もすばらしいものばかりだった。問題点としては、接着力の弱い接着剤があったため接着させるのに手間取った。また形も複雑だったため、組み立てるのが小学校の低中学年には難しかったようだ。 2.絵日記 絵日記は書いた子と書けなかった子が半分半分くらい。書いた子に関しては、レベルなりの日本語を使えていたようだった。
グループ 3 出席 4 名	この日の出席は H、S、K、T の 4 人。ロケットの完成と、日記。 S はロケットは完成していたので、最初から日記に取り組む。写真を一緒に

	に2枚選んで紙に貼り、一番上には「かがくかん」、写真のタイトルを二人で考えて写真の下に、自分の名前を、そらではひらがなが書けない為、紙にひらがなを書いて書き写させた。あとは絵を描いたりシールや折り紙を貼ったりさせた。とても楽しんで飾り付けていた。 Kも大体同じようにした。 Tは、写真の下に一行の文を書かせた。写真の周りに稲妻の絵を描いたことに科学館らしく、体験が生きていると感じた。 Hは日記を拒否。ロケットに窓をつけたり、色々工夫する事に専念。一つのを完成させ発展させることができたことは評価できると思う。 ロケット作り、日記共にボランティアがマンツーマンでつきっきりではあったが、Hも投げ出さず取り組み、S、K、Tともなかなかいい日記が出来上がったと思う。全員が完成できて中途半端に終わらず良かったと思う。
グループ4 出席6名 1名は他の グループの 補助	ロケットの完成：それぞれ個性的な作業で、良い経験になったと思う。 K:緻密な計算の上ぎりぎりに出来上がった T:細長いロケットを工夫して完成させた S:きれいなテープや星を飾りかわいくできた R:優等生的な作り方をし、苦戦していた。 Y:雑だが大胆に根気よく最後まで仕上げた 2.科学館の日記：ロケットの完成に時間がかかったので、宿題にした。
グループ5	1.科学館の日記：来日したばかりの子も、漢字を使って日記を書いた。写真を使うことで、文章もうかんで来るようだった。 2.紙飛行機のお土産作り：小学生にプレゼント用のUFOをたくさん作って喜ばれた。

お楽しみ会

インドネシアの楽器アングルンで「きらきら星」を全員で演奏する。

楽器の用意と指導：国際交流活動で日頃演奏や指導をしている会員が行った。

グループ1	初めはわからない様子だったが、まず一回曲をみんなでやったあとは、自分の役割がわかったようで、自分の担当の音を確認しながら遅れないように一生懸命鳴らしていた。終わったあとも、緊張感と興奮が残っていたようだ。
グループ2	参加者にとって、未知の打楽器を演奏するというのは非常に楽しい体験であり、ふざける子も無く、すばらしい演奏になった。音楽を通してみんなの心が一つになった瞬間を共有できた。演奏体験は参加者にとって質の高い喜びであり、地球っ子で学ぶ励みにもなったと思う。

グループ 3	もっと男の子達は参加しないかと思ったが、案外みな真面目に取り組んだ。最初は到底曲になるとは思えなかったが、最後にまとまった時は驚きと共に感動した。グループ 3 の男の子達が上手くそのタイミングで一音ずつ出すことができるとは思っていなかったが、みなとても真剣だった事は感心した。最後に全員で一つの事に取り組むことが出来たことがとても有意義に思えた。
グループ 4	みんなで協力して、ハーモニーを楽しんだようだ。
グループ 5	全員で演奏できたことは、満足だったようだ。事前説明の時間がもう少しあったらよかった。

総括

船橋におけるボランティアによる外国人児童生徒と、日本人児童生徒を対象とした夏休み教室は、今回で 5 回目となった。地球っ子プロジェクトとしては 3 回目だが、多くのメンバーが 1 回目から参加していて経験の積み重ねがあり、短時間でスムーズに計画が実施できた。

参加児童・生徒の募集は、教育委員会の支援により、市内の小中全 83 校へ案内を送ることができ、同時に学校派遣で入っている協力員から個々への案内をすることによって洩れがないようにした。ボランティアは、メンバー以外に国際交流協会の後援により成人向けの日本語教室に呼びかけ、臨時の募集ができた。また共催である東部公民館には講堂という広い部屋、実行委員会のための会議室等、場所を提供してもらえたことなどは、大きな支えとなった。

今回の特徴としては、9 月からの転入を見込んで来日したばかりの子、直前に地球っ子プロジェクト主催の子ども日本語教室に入会した子どもが多く、1 週間前に参加者が急増したため、例年以上にグループリーダーが対応に苦慮したことが挙げられる。また、高校生が 2 名ボランティアとして参加し、子どもたちに親しみをもって迎えられていたことも大きな成果だった。地域の新聞 2 誌からも関心が寄せられ、ボランティア募集も掲載してもらった。ボランティアについても関心が広まっている感がある。1 回目から夏休み教室に参加している子も、日本語には問題なくなっているが、自分の体験に基づいてボランティアの作業を手伝ってくれ、成果が形になって現れてきているように思われた。

反省会では、グループ全体や参加者全員でまとまって「日本語で遊ぶ」時間がもう少しほしかった、アンクルンの全体演奏の結果はすばらしく、日ごろ異文化の中で生きる子ども達のストレスは、かなり大きいものがあるので、同じような仲間と音楽を共有すること

が授業にも取り入れられるといい、などの意見が出された。受付に時間がかかり、全員同時に開始することができなかったため開会の挨拶が活動開始後になったこと、最終日は遊びを最後にもってきたため閉会の挨拶がけじめよくできなかったことは、統括係の反省点であるが、総じて目標としていた、互いを認め合い、コミュニケーションをとろうとする姿勢は見られたように思われる。

今後の課題としては、保護者が連れて来られない子どもたちにこのような機会をどのように与えることができるか考える必要があるだろう。